

新年のご挨拶

2024年1月吉日

明けましておめでとうございます。本年もよろしくおねがいします。

今年は辰年ですが、正確には「^{きのえたつ}甲辰」という年になります。

「甲」は十干(昔の中国の数字)で始まりにあたり生命や物事の始まりを意味し、「辰」は草木が伸びて形が整い活気にあふれている様子を表し、「甲辰」の年は成功の芽が育ち形を成していく年と言われております。

昭圭会も2023年4月に理事長・院長交代に伴い新体制となって9カ月が経ちましたが、「甲辰」にあやかれるよう、決意新たに1年を過ごしていきたいと思っております。

本年は医療・介護・障害福祉の6年に1度のトリプル改定の年となりますが、少子高齢化が進み2025年から2040年に高齢者人口がピークを迎えることから、病気を「治す」だけの医療ではなく、病気を治し住み慣れた地域で暮らすことのできる「治し、支える」医療への転換が求められております。「支える」というのは、病院・施設・訪問事業に加えて自治会やボランティアなどの生活支援・介護予防などが垣根なく連携することで、1人ひとりの高齢者を支えていくことを意味しておりますが、幸い昭圭会には医療・介護・訪問事業が揃っておりますので、これらを有効に活用することで「治し、支える」医療を実践していければと考えています。

ハーバード大学マイケル・サンデル教授(哲学者)の言葉に「人の価値や功績は能力や給料に規定されるのではなく共同体が共有する善いこと(共通善)にどのぐらい貢献するかで規定される」という言葉があります。

我々に置き換えてみると、地域の皆さんの健康と暮らしに貢献することが、我々の価値を高め功績として評価されるということになります。我々が誰に対してどのような仕事をしていくのかを今一度見直すために、昨年の4月から昭圭会の理念と行動指針を再策定し、それを基に各部署が管理目標を設定・実践しております。

上記の考えを実践し地域へ貢献するにあたり、持続的にサービスを提供できることも重要になってきます。そのためにはまず昭圭会本体の病院が健全に稼働する必要があり、中でも入院ベッド稼働が重要になってきます。地域的に高齢者の方々が入院の中心となりますが、それらの患者さんをコンスタントに受け入れることができるよう外来受診や救急受け入れを強化し、治療後は安心して地域に戻れるようコーディネートし、退院後は連携をとりながら病状が悪くなればスムーズに受け入れるサイクルを整えることで、地域の皆さまから信頼され選ばれる病院になることができます。入退院調整を効率化し、介護・訪問事業等院内外の垣根を越えて連携するよう努めることで実践していきます。

昭圭会が今後も地域の皆さまに信頼され選ばれる病院になれるよう頑張っております。

医療法人 昭圭会 理事長

伊藤 秀裕

